

第2分科会

学校保健委員会での実践：清掃指導 視覚化の工夫で意欲を高めた「クリーン大作戦」

提案者 永田小学校 長瀬 祐子

I 学校保健委員会で「清掃指導」を選んだきっかけと準備

(1) きっかけ～課題が山積みだった掃除の時間～

- ・各掃除担当場所に必ず職員がいるわけではないため、掃除の時間帯での私語が多く、トラブルや怪我が多かった。
 - ・正しい掃除用具の使い方や片付け方、掃除の仕方を知らない児童が多かった。低学年は初めて掃除する子も多く、また新型コロナウイルスの影響で掃除をしなかったり変更をしたりしていた。
 - ・初任校の経験年数が少ない職員が半数以上で、職員自身の清掃指導が曖昧だった。
- ⇒以上の課題から、子どもたちがしっかり掃除をする意味を理解して自分たちで進んで掃除ができるように、年度末に学校保健委員会のテーマを清掃に決めた。

(2) 課題解決のための下準備

- ①自校と他校の「学校保健計画」を集め、見直しをした。
- ②ダスキンの掃除教育カリキュラム「そうじ上手になろう」から資料収集をした。
- ③特活のカリキュラムを改めて見直し、各学年で身につける内容を確認した。

2 クリーン大作戦パートI～I年目の取組～

(1) 職員の共通理解を図るために職員会議資料の工夫

職員会議で第1回学校保健委員会の提案をする際、年間活動計画と特活カリキュラムも資料に添付して提案した。職員が1年間見通しをもって活動できるように工夫をした。

(2) 「もくもく掃除」を全校へ呼びかけ

6月初めに全校テレビ放送で掃除の目的「なぜ掃除をするのか」と掃除の方法、「もくもく掃除」について全校で共通理解をした。めあてを決めるクラスの話し合いが要になるため、話し合い前のテレビ放送の内容を重視した。主にダスキンの資料を使いながら説明をした。

(3) 「クリーン週間」でもくもく掃除の実践

10月と2月に「クリーン週間」を計画し、「もくもく掃除」を実践した。内容は、個人で「掃除がんばりカード」を取り組み、最終日に振り返りをした。その結果を達成度が分かりやすいよう、クラスごとにシールで貼り、昇降口に掲示した。

(4) 健康委員会のアイディア「お掃除すごろく」を採用

クリーン週間以外での継続の難しさを感じ、委員会活動時に振り返りをした。ワークシートを使ってできているところとできていないところを明確にし、めあてを決めた。「お掃除すごろくをして、ゴール出来たらクラスレクをする」という児童の意見を採用し、実際に高学年のみで実施した。

(5) 動画を活用した学校保健委員会

第2回学校保健委員会は、新型コロナウイルス流行のため Google ミートでの開催をした。6年生から「ずっときれいな永田小学校にしよう」の思いを込め、掃除の仕方の動画を作成した。掃除の場所ごとの動画があり、いつでも簡単にみられるものとして在校生に引き継いだ。

(6) 1年目の振り返り

- ①大事な掃除の基本は、テレビ放送で視覚的に分かりやすく伝えた。
- ②清掃指導の年間活動計画で職員が見通しを持てるようにした。
- ③クラス毎の頑張りが一目でわかるように結果を絵やシールで表現した。
- ④「お掃除すごろく」では、日々できることを楽しく振り返り、意欲を高めた。
- ⑤感染症流行時でも、iPadを活用して学校保健委員会を開催した。
- ⑥できるようになったことを動画で見合い、評価のツールの一つとして活用した。
- ⑦新年度の掃除指導に活用できるように動画を作成した。

3 クリーン大作戦パート2～2年目の取組～

(1) 全校を巻き込む流れづくり～代表委員会の活用～

「もくもく掃除」の定義をさらに明確化し、代表委員会で学校保健委員会の年間計画を周知した。年間活動計画では、「他の委員会活動や教科との関連」「図書館から」という項目をつくり、クリーン大作戦に取り組む流れを視覚化した。

(2) 「いつもきれいってどういうこと？」～家庭科との連携～

掃除の合格基準について学校保健委員会で話し合った。学校薬剤師が照度や環境の検査をしていることも伝えた。学校保健委員会の動画をニュース風にまとめて保健集会で発表した。6年生の家庭科の单元「クリーン大作戦」でポスターと動画を作成した。

(3) 「お掃除すごろく」を全校で挑戦

1年目に高学年のみ実施した「お掃除すごろく」を全校で取り組んだ。すごろくの絵を委員会児童が描き、最後は気持ちよく下校するというストーリー仕立てにした。すごろくの駒は保健室にあったマスコットを生かして、お掃除の神様をつくった。掃除の時間はオルゴールを流し、落ち着いて掃除ができるような環境づくりをした。実際に養護教諭が掃除の時間に見回ったが、私語をしているクラスは少なく、短時間で終わっている様子がみられた。

(4) 2年間のまとめとして「ぴっかぴかのお掃除の花」の作成

「もくもく掃除はできている」とアンケートで答えた割合が33%から63%に上がっていた。個人で「もくもく掃除」をしてよかったこと、できるようになったことをピンクの花びらに書き、それをグループで共有し、ひとつの花びらにして大きな「ぴっかぴかのお掃除の花」を咲かせた。

(5) 2年目の振り返り

- ①子どもや職員がいつも確認できるように、共有したい事柄を大きく掲示した。
- ②保健集会で興味を引くよう、清掃の仕方の動画をニュース番組風に編集した。
- ③「お掃除すごろく」を全校で取り組み、各学年の頑張りを楽しく発信した。
- ④年間取組カレンダーが完成し、活動の足跡に達成感が持てた。
- ⑤「ぴっかぴかのお掃除の花」の完成で達成感を味わい、来年度の意欲を高めた。

4 グループワーク共有

- ・毎年度初めに学校の清掃の仕方についての研修を30分やっている。指導部と集まってマニュアルを作成した。社団法人全国ビルメンテナンス協会の資料が分かりやすいため参考にした。先生によって清掃の仕方が違うと進級時に子どもたちが困ることや初任の先生も分かっていないことが多い事から学校全体で決まりをつくった。頭をぶつけたり歯を折る子どもがいたため、後ろに進みながらジグザグで雑巾がけをするシンデレラ拭きを定着させたところ、怪我が減った。

- ・マニュアルを作成して教室に提示している。掃除の時間の音楽を決めると分かりやすい。流し場の掃除用に手袋を使っているため、清掃用具の管理も必要になる。習字の後はどうしても汚れてしまうので、習字用のネット石鹼を置いて使い分けている。
- ・各学校のスタンダードを比べてみて、共通点を見つけた。雑巾がけは担任の指導が大きく影響してしまうのでスタンダードを決めきれない。ジグザグ拭きというのはやはり安全だという共通理解ができたため、説得力をもって学校に持ち帰りたい。また、ユニバーサルの視点からも、ビニールテープでごみを集める場所をつくるのもよい。

5 質疑応答

- Q 学校保健委員会や委員会活動において、なかなか子どもからやりたいという声が出ない。「これをやってね」とやらせがちになってしまう。子どもが主体的に動く工夫があれば教えてほしい。(西区 稲荷台小)
- A 自分たちで考えてこれをやりたいという意見を出すのは少ない。掃除をしていく中で、話し合いをさせてどうすればいいかを問いかけると意見が出た。その意見をきちんと吸い上げて実践してみたのがよかったです。すくなく全校でやりたいとなり、子どもと話す中で「絵を描いてみない?」など楽しみながらやっていた。養護教諭自身のやってみたいことと擦り合つつ、相談しながら進めた。
- Q 学校保健委員会はどうしても養護教諭1人で頑張ってしまいがちな状況がある。2年間の実際の取り組みで組織として他の先生方も関わっていたのか、その場合は保健部の先生が中心なのか、委員会の先生が中心となってやっていたのかを知りたい。(鶴見区 下野谷小)
- A 学校保健委員会のテーマや職員会議の資料は健やかな体部会から出している。掃除の具体的な内容は特活部の先生と協力した。特活に詳しい先生が級外にいて相談しやすかった。家庭科は実践提案のタイミングだったため、一緒に授業に参加することになった。今年は人権部とふわふわ言葉に取り組んでいる。一人でやるのはなかなか厳しいため、先生方に早めに声をかけて相談している。